

DANCE

MAGAZINE

ダンスマガジン



創立20周年特別企画

熊川哲也 &

Kバレエカンパニー

栄光の20年、そして未来へ

公演レポート

エイフマン・バレエ

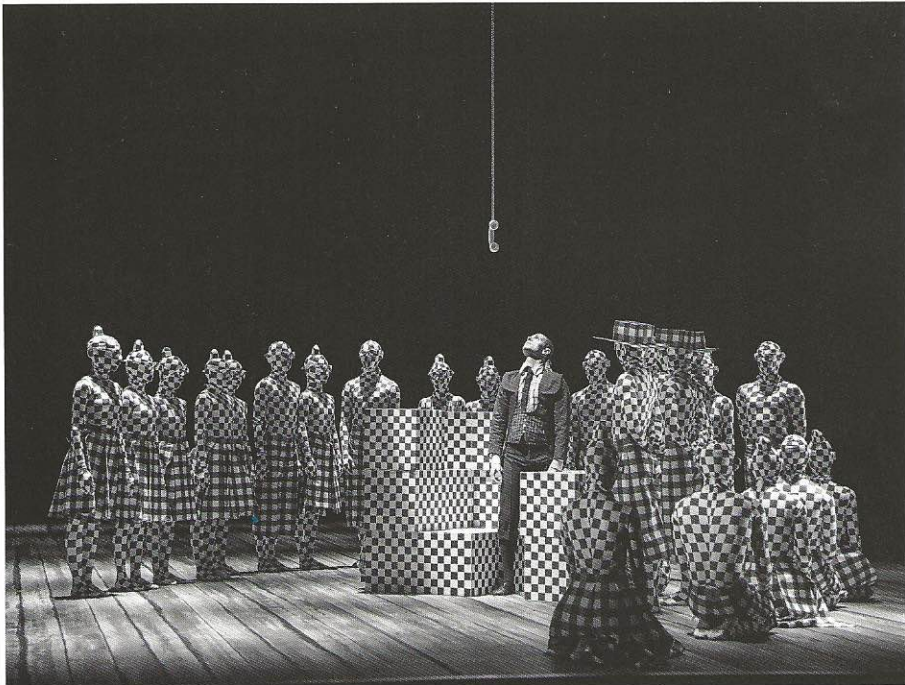
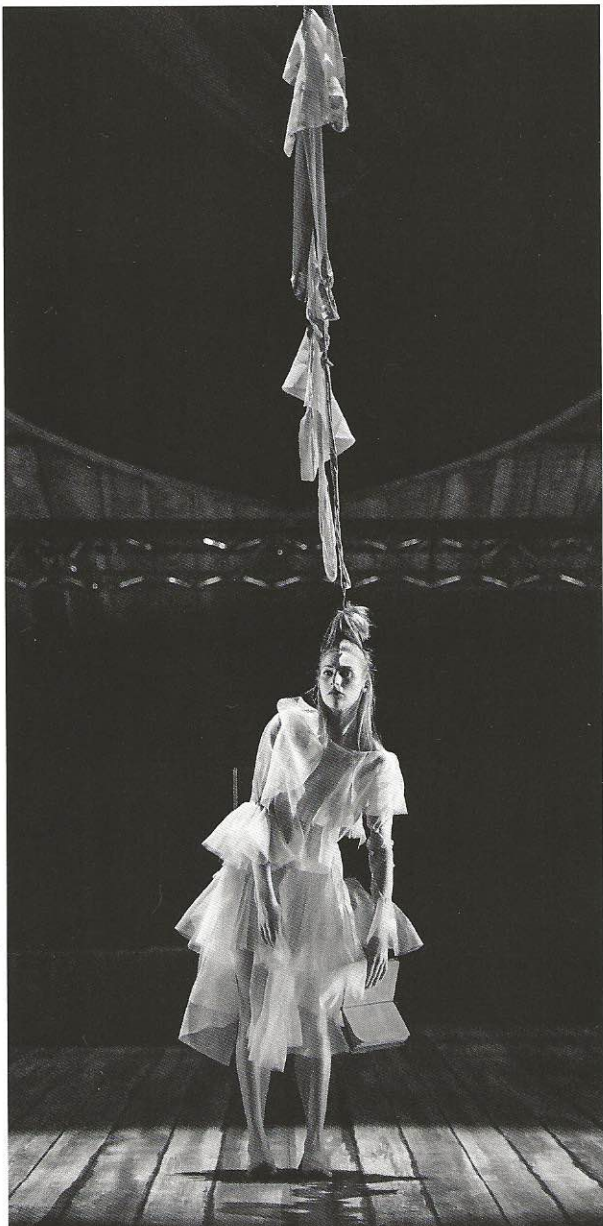
「ロダン」「アンナ・カレーニナ」

マシユール・ボーン

「白鳥の湖」

10

OCTOBER 2019
SHINSHOKAN



I lost the capacity to talk.

And I could never understand why you were insensitive to the sorrow and shame you inflicted on me with your words and judgements - it was as if you didn't sense your own power.

We had to examine in all its details, from all sides, this terrible trial that is pending between us and you, a trial in which you keep on claiming to be



3点とも「審判」左：ダリア・イワノワ Left: Daria Ivanova in Jiří Bubeníček's *Processen*. Photos © The Royal Swedish Opera/Sören Vilks

だ、と言えるかもしれない。アーセン・メーラビヤンの場合がまさにそれで、スウェーデン・ロイヤル・バレエを去る今シーズン、この役を初演する榮譽を得た。カフカの原作どおり、メーラビヤンはすべての中心に存在しながらも傍観者である。ときには大胆に、冷静に、あるいは無残になる。彼に迫りくる出来事进行操作することも、彼の周囲を取り巻く関係を認可することもできず、いかなる意義も見いだせない。カフカ自身、女性とうまく関係を結べない人だった。ブベニチェクは「審判」に登場する女性全員を前面に出すことにより、ヨーゼフ・Kと女性とのつながりにカフカの白伝的要素を反映させた。

作品には、スウェーデン・ロイヤル・バレエの卓越した女性ソリストの見せ場がふんだんに盛りこまれた。デジスラワ・ストエワは官能的なビュルストナー嬢。ヨーゼフ・Kを誘惑してキスをするよう仕向けながら、その後に口説かれてもはねつける女だ。ゴジョカルが用意した赤いハイヒールと唐辛子の髪飾りが、その激的な性格を際立た

せた。ダリア・イワノワは、延吏の浮気性の妻をユーモアを交えて演じた。ナム・ミンジは、弁護士の中で死刑囚の男に目のないレニを大胆に造形した。軽薄な法廷画家ティトレリと厳格な裁判所付き教師という相反する二役に配されたのは、ジェローム・マルシャン。教師はヨーゼフ・K/カフカに、裁判の行方が思わしくないことを告げる（この〈審判〉の世界で無罪を勝ちとった被告は誰もいない）——したがってなぜ訴えられたのか、どんな不利な証拠があるのか一切わからなくても、自分の運命を受け入れなければならぬのだ、と。

チーム・ブベニチェクはヨーゼフ・Kが落ちこんだ迷宮物語を見事に捉え、簡潔明瞭な語り口、スピーディな展開、圧倒的な美術で表現することに成功した。使用音楽——アルフレート・シュニトケやアルヴォ・ペルトをはじめ約十六名の作曲家と民族音楽——は、あらゆる雰囲気をつかんで、あらゆるコーエン・ケッセルスの指揮により臨場感を盛り立てた。

(訳・堤理華)